

受理年月日	平成31年2月26日	付託年月日	平成31年2月27日	所管委員会	第3委員会
番号	31年請願第1号				
件名	人工島関連予算案を否決し、人工島事業の抜本的見直しを行うことについて				
請願者	東区奈多一丁目6-13 博多湾会議 共同代表 脇 義重				
紹介議員	荒木[筆頭]、森(あ)、倉元、綿貫				
分割付託	なし				
要旨	<p>市は、今なお博多湾の公有水面を埋め立てて人工島を造成中です。この人工島は計画段階から多くの問題点が指摘されてきました。能古島の面積に匹敵する約401ヘクタールの海水面が消滅しました。さらに幅400メートルのしゅんせつで海底土砂が次第に航路に押し寄せ、陸地では浜欠け現象が起り、松などの植生が根こそぎ倒壊し、沿岸の県道59号線、海の中道線が部分陥没し、閉鎖されました。人工島が遮蔽物となって博多湾内の潮流を減速させ、富栄養化が進みアオサ発生の原因となりました。自然環境は激変し、水鳥の種数と生息数は激減しました。また、人工島の港湾施設は過剰投資になると指摘されてきました。市民生活に与えた影響も大きく、自然とともに暮らすまち福岡のイメージが損なわれていきました。</p> <p>自然を破壊しながら造成されている人工島は、事業自体も破綻しています。抜本的な見直しを行うことなく続行され、にっちもさっちもいかない泥沼にはまり込んでおり、造成した土地が売れないという致命的な現実は、市政と財政を大きくゆがめてきました。人工島事業は造成地分譲に補助金を支給する販売方法が導入され、それでも販売が進捗しないと見るや、病院立地には不適で、小児医療機関の市東部への偏在と、西部と南部の小児医療サービス低下が招来されると懸念されていたにもかかわらず、市立こども病院を移転させ、また、市内3カ所に案分され農産物の地産と市民生活にサービスを提供していた青果市場を統合移転し、さらに九州大学箱崎キャンパス跡地など他の適地を検討することなく人工島に市民体育館を移転するなど、市施設の人工島への移転が人工島事業破綻の穴埋めとして、人工島の地理的条件を無視し、市民に説明責任を尽くさないまま強行されています。企業による市政私物化は激しく、命名権という名目で、公的施設である市立の市民体育館が当初私企業の施設かと思間違えるほどに企業名の看板だけが上げられていました。</p> <p>人工島は毒グモセアカゴケグモの繁殖地になっていることが明らかになりました。人工島に市立こども病院を移転してよかったのでしょうか。この移転は多くの市民に犠牲を強いた市政の失敗ではないのでしょうか。私たちは、平和に安全に、安心して暮らしていけるまち福岡を求めています。破綻した人工島事業に、これ以上私たちの税金を使ってほしくありません。2019年度末で全会計の市債発行残高は2兆403億円の見込みで、市民1人当たり129万円となっており、公債費が1,000億円程度と市民生活への影響が大きい状況が続いています。必要と展望のない人工島のために、借金を次世代に残すことはできません。</p> <p>今、市がすべきことは、人工島事業の破綻救済に税金を使い続けることではなく、博多湾の豊かな自然とともにあって、人材が不足している福祉、医療、教育、文化に財政の重点を置く、誰もが住んでよかったと言えるまちづくりに専心することではないのでしょうか。</p> <p>よって、以下の事項を請願します。</p> <p>1. 市長が市議会に提出した2019年度予算案のうち、101億6,777万円余の人工島関連予算案を否決し、人工島事業の抜本的見直しを行うこと。</p>				
審査年月日	平成 年 月 日	結 果	委員会 平成 年 月 日		
	平成 年 月 日		本会議 平成 年 月 日		
	平成 年 月 日				

2019年2月26日

福岡市議会議長
川上晋平様

博多湾会議
福岡市東区奈多一丁目6番13号
共同代表 脇 義重



2019年度予算案中、101億6777万円余の人工島関連予算案を否決し、

人工島事業の抜本的見直しを行うよう求める請願

【請願項目】

福岡市長が市議会に提出した2019年度予算案のうち、101億6777万円余の人工島関連予算案を否決し、人工島事業の抜本的見直しを行うこと。

【請願理由】

福岡市は、今なお博多湾の公有水面を埋め立て人工島を造成中です。この人工島は計画段階から多くの問題点が指摘されてきました。能古島の面積に匹敵する約401haの海水面が消滅しました。さらに幅400メートルの浚渫で海底土砂が次第に航路に押し寄せ、陸地では浜欠現象が起こり、松などの植生が根こそぎ倒壊し、沿岸の県道「海の中道線」が部分陥没し、閉鎖されました。人工島が遮蔽物となって博多湾内の潮流を減速させ、富栄養化が進みアオサ発生の原因となりました。自然環境は激変し、水鳥の種数と生息数を激減させました。また、人工島の港湾施設は過剰投資になると指摘されてきました。市民生活に与えた影響も大きく、「自然とともに暮らす街、福岡」のイメージが損なわれていきました。

自然を破壊しながら造成されている人工島は、事業自体も破綻しています。抜本的な見直しを行うことなく続行され、二進も三進も行かない泥沼にはまり込んでおり、造成土地が売れないという致命的な現実は、福岡市政と財政を大きく歪めてきました。人工島事業は造成地分譲に補助金を支給する販売方法が導入され、それでも販売が進捗しないと見るや、病院立地には不適で小児医療機関の福岡市東部への偏在と西部と南部の小児医療サービス低下が招来されると懸念されていたにも拘わらず、市立こども病院を移転させ、また市内3箇所以案分され農産物の地産と市民生活にサービスを提供していた青果市場を統合移転し、さらに九州大学箱崎キャンパス跡地など他の適地を検討することなく人工島に市民体育館を移転するなど、福岡市施設の人工島への移転が、人工島事業破綻の穴埋めとして、人工島の地理的条件を無視し、市民に説明責任を尽くさないまま、強行されています。企業による市政私物化は激しく、命名権という名目で、当初公的施設である福岡市立の市民体育館が私企業の施設かと思間違えるほどに企業名の看板だけが挙げられていました。

人工島は毒蜘蛛セアカゴケグモの繁殖地になっていることが明らかになりました。人工島に市立こども病院を移転してよかったのでしょうか。この移転は多くの市民に犠牲を強いた市政の失敗ではないのでしょうか。私たちは、平和に安全に、安心して暮らしていける街福岡を求めています。破綻した人工島事業に、これ以上私たちの税金を使ってほしくありません。2019年度末で全会計の市債発行残高は2019年度末で2兆403億円の見込みで、市民一人当たり129万円となっており、2兆円を超え公債費が1000億円程度と市民生活への影響が大きい状況が続いています。必要と展望のない人工島のために、借金を次世代に残すことはできません。

今、福岡市がすべきことは、人工島事業の破綻救済に税金を使い続けることではなく、博多湾の豊かな自然とともにあって、人材が不足している福祉、医療、教育、文化に財政の重点をおく、だれもが「住んでよかった」といえる街づくりに専心することではないのでしょうか。

よって、2019年度予算案中、101億6777万円余の人工島関連予算案を否決し、人工島事業の抜本的見直しを行うよう求め、請願します。